

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第363回

荻野吟子

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年7月12日

編集委員：入試広報室 鈴木



## 今回の言葉

学問というものが単に知るという  
ことではなく、疑うということから  
始まることを知った。

荻野 吟子は、近代日本における最初の女性の医師である。女性運動家としても知られる。なお、日本人女性初の国家資格を持った医師であるが、医術開業試験制度がなかった時代から、榎本住ほか何人かの女性医師が開業していた。西洋医学を学んだ女性医師としてはシーボルトの娘・楠本イネがいる。

## Column

学生時代から勉強が苦手だった私は今回の言葉から“だから勉強ができる人は理解が深いんだ！”と感じました。答えを聞いて“そういうものなのか”と思って終わるのではなく“なぜそうなるのか”という疑問を持ってもう一歩深くまで追求することによって理解度が上がって“こういうことですよね？”と自分の解釈や理解を説明・確認することで完全に理解する。それが『学ぶ』ということなのだということと、荻野さんは医師という人の命を扱う道を志す者としての責任感を強く感じました。

私が中学生の頃、先生に説明事項を話しに行った時に『それはなんで？どうして？』と複数質問され、それに対して説明できたこともできなかったこともありましたが、“なんでこんなに突っ込むの？察してよ…”と非常に戸惑った経験があります。しかし、今思えば先生は私の説明した内容も心境も全て理解した上で“人に伝えるとは”ということを教える意味で私に多くの質問を投げかけてくれたのだと思います。現在スポーツ競技の指導者である私にとって、この経験で得たことは指導する上で非常に大きく意識することになっています。また、自分が伝えたことへの理解度を図る上でも役立っていると思います。“知識はアウトプットできて初めてインプットできる”と何かの記事で読んだことがあります。先に述べた“もう一歩深くまで追求する”ということは大切だと理解しているものの、興味がないことについては面倒に感じる作業です。そんな時に“正しく伝えられる自分であるため”と考えることで学ぶ姿勢が変わり、新たな知識を得ることや興味がなかったことに対しても魅力を感じられることにも繋がるのではないかと私は思います。

知らないよりも知っていた方がいいと思います。知っていることはより深く知っていた方がいいと思います。質問や学ぶということは、純粋に“好奇心”を高めることなのかもしれませんね！